

ダ メ ？ 嫌 だ。 吐 き 氣 が す る。 怖 い よ ：	く な い 「 起 き な さ い 「 本 当 に 行 か な き や	こ す 。 「 嫌 だ 、 起 き た く な い 。 学 校 に 行 き た	翌 朝 も 張 り 切 っ て お 弁 当 を 作 り 、 息 子 を 起	久 し ぶ り だ ：	登 校 す る 息 子 の 後 ろ 姿 に 、 私 は 「 あ あ 本 当 に	せ 、 お 弁 当 を 持 た せ て 送 り 出 す 。 半 年 ぶ り に	た り 褒 め た り 急 か し た り 。 慣 れ な い 制 服 を 着	や ダ メ ？ 行 き た く な い な あ 」 と 言 う 。 な だ め	弁 当 を 作 っ た 。 息 子 は 案 の 定 「 学 校 行 か な き	の 煮 物 に ソ ー セ ー ジ 、 好 物 ば か り を 入 れ た お	し て チ キ ン ス テ ー キ と ブ ロ ッ コ リ ー 、 ひ じ き	を 抱 え た ま ま 登 校 初 日 を 迎 え た 。 私 は 早 起 き	た か ら と い っ て 通 学 出 来 る の か ？ そ ん な 心 配	子 達 も 同 じ 中 学 へ 進 学 す る し 、 中 学 生 に な っ	小 6 の 秋 か ら 不 登 校 だ っ た 息 子 。 い じ め た	り 生 活 が 始 ま っ た 。 。	息 子 が 春 か ら 中 学 生 に な り 、 私 の お 弁 当 作			祈 り
---	--	--	---	----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--------

より強い拒否反応に迷う私。「わかった。行くか行かないか自分で決めて」「じゃあ行かない」「お弁当作ったのに：お昼ご飯はお弁当を食べなさいよ！」「私は一人きりで日中を過ごす息子を心配しながら、そう言っただけで出社した。夕方帰宅すると、シンクに空のお弁当箱が置いてあった。食欲があれば大丈夫。きつと大丈夫。そう自分に言い聞かせた。翌日は土曜日、不安な週末。月曜日はどうしよう。行ってほしい：。行ってくれかな。：。そんな気持ちを押して殺して気にしてない。いふりをして過ごした。なんとか学校に通わせなくては：。そんな親としての責任に押しつぶされそうになりながら「明日のお弁当は何が良い？」「と聞いてみた。すると「ハンバーグ」と返事が。良かった。食べたいものがあれば大丈夫。そう思った。

迎えた月曜日の朝、ハンバーグ弁当を持たせて送り出した。「行かなきゃダメ？怖いよ」

「今日は行きなさい。」

「：」

「涙目になりな

つ	買	な		安	し	バ	し	買	た	な	た	チ	連	子	い	な	か	当	が
っ	っ	い	と	心	苦	ー	た	い	息	。夕	エ	絡	さ	た	？	な	に	ら	
た	っ	よ	こ	し	勞	グ	。明	。学	子	。方	が	が	ん	。息	？	か	こ	ト	
か	た	」	ろ	て	だ	！	日	校	が	急	が	来	が	。息	い	れ	ボ		
ら	じ	と	が	眠	っ	「	の	で	待	い	。あ	る	学	。息	と	で	ト		
「	ゃ	布	翌	り	た	ま	お	使	っ	で	。あ	の	校	。息	い	良	ボ		
「	な	団	朝	に	。こ	た	弁	う	て	。あ	は	で	に	。息	け	か	と		
ハ	い	の	、	つ	の	？	当	か	い	。あ	い	来	遭	。息	な	っ	登		
ン	「	中	息	い	ま	了	は	ら	。マ	。あ	て	い	い	。息	？	た	校		
バ	買	で	子	た	ま	解	何	「	マ	。あ	い	な	の	。息	？	の	す		
ー	わ	泣	は	。私	ま	。私	が	そ	マ	。あ	い	い	の	。息	か	？	る		
グ	な	き	「	の	学	私	良	う	、	。あ	、	い	で	。息	？	？	息		
弁	い	出	怖	不	校	の	い	な	ノ	。あ	何	の	す	。息	？	？	子		
当	と	し	い	安	に通	不	？	が	ー	。あ	度	の	が	。息	？	？	を		
作	い	た	よ	は	え	安	「	良	ト	。あ	も	で	？	。息	？	？	見		
っ	け	。私	。行	取	そ	は	ハ	い	を	。あ	ス	き	？	。息	？	？	な		
た	な	「	き	取	う	は	ン	物	買	。あ	マ	な	？	。息	？	？	が		
の	い	ノ	た	り	だ	取	「	を	い	。あ	ホ	か	？	。息	？	？	ら		
よ	と	ー	。私	越	。こ	越	ハ	。意	い	。あ	を	っ	？	。息	？	？	、		
「	思	ト	。私	。こ	の	。こ	ン	外	い	。あ	を	か	？	。息	？	？	本		
「			。私	。こ	の	の	ン	に	い	。あ	を	っ	？	。息	？	？			

ごめんなさい。でも、「今日行かないとど
んどん行きにくくなるでしょ？」「そんなこ
とは解っているよ！だけど！」と怒鳴る息子
。「学校の白い建物を見ると吐き気がする。
はあはあ辛い。消えちゃいたい。ママのお腹
の中に戻りたい：「私はかける言葉を失った
。そして迷いながらもこう言った。「わかっ
た。そんなに辛いならしばらく学校は休もう
」
それ以来、息子は学校に行っていない。お
弁当を作る必要もなくなった。でも私は毎日
家で一人きりで昼食を食べる息子のお弁当を
作っている。栄養のバランスを考えて、好き
なものを中心に。シクの中、空のお弁当箱
を見たいから。食べていれば大丈夫。きっと
大丈夫。祈りを込めて。